

## H29.10.14 《近畿地区》 「運動会や行事について再考しよう」

場所：神戸大学附属幼稚園 ～公開保育及び「学びのカード」による事実に基づく協議～

講師：北野 幸子先生（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

演題：「外遊び、園外保育、運動会等を再考しよう」

長雨が続いた10月の中旬でしたが、研修会当日は心配した雨も止み、戸外の遊びも含めて公開保育が行われました。ごっこ遊びを楽しむ子どもや、運動的な環境にかかわって遊ぶ子どもなど、秋の深まりの中で、自ら環境にかかわって楽しむ子どもたちの様子を参観させていただきました。

子どもたちの姿（事実）をもとに、「幼児の学び」「学びの要因」「視点（10の姿）」を書き込む「学びのカード」を用いて、協議を深め合いました。同じ遊びを参観した参加者同士が集まって、子どもの姿（事実）を詳細に語り合うと共に、子どもたちが何を学び、その要因は何だったのか、10の姿で分類すると、主にどの項目に分類されるのか、一つの事実から多面的な見方が話し合われ、多くの気づきを得ることができました。また、事実をもとに論理的に分析したり、10の姿を意識して保育を振り返る楽しさも共有し合いました。



北野先生からは、幼児期の運動能力の発達において、主体的な遊びの重要性や、動きの種類の豊富さの重要性をお話いただきました。多くの研究結果に基づいたお話は、説得力があり「好きな遊び」場面での幼児の学びの大きさを改めて感じさせられました。「楽しく遊ぶ経験」「自分で工夫した経験」「自分でやり遂げた経験」を大切にしながら保育することや、「なるべく待ち時間が短いこと」「話し合いは短くして、運動量を保障すること」など援助や環境構成のポイントについても具体的に教えていただきました。

また、運動会をはじめとする行事の在り方について、「出来栄え」「見栄え」を重視していないかと問いかけがあり、「組体操」から「なかよし体操」に見直しを図った園の取り組みなどをお話いただきました。幼児教育の独自性は、「教科主義ではなく、経験主義教育」であることを再度、熱くお話いただきました。子どもたちの探究心を育て、遊びの「過程」を大切にする保育とは・・・？

行事を迎えるまでの子どもたちの表情を思い浮かべながら、行事のあり様についても深く考えさせられました。

貴重な公開保育の機会を提供してくださった神戸大学附属幼稚園の先生方、早朝より熱心に参集いただいた先生方、そして、多くの気づきや視点を与えてくださった北野先生に深く感謝申し上げます。

